



【内容】

- ・ 創刊によせて
- ・ 特集Ⅰ 誌上フォーラム（座談会）
- ・ 実践レポート
- ・ 特集Ⅱ 開館記念事業ハイライト
- ・ かながわの婦人行政
- ・ 海外レポート
- ・ 婦人関係行政情報
- ・ 婦人の動き
- ・ 法律ガイド
- ・ 婦人図書館ガイド
- ・ 編集後記

（B 5 版・全 92 ページ）

創刊のことば

館長 金森トシエ



神奈川の県民女性、約三三七万人。その現在と未来にわたる行動計画として、多くの県民の参加をもとに「かながわ・女性プラン」が昨年四月に策定されてから、間もなく一年を迎えます。

昨年五月には、プランの推進をめざして民間女性の団体・グループ・個人が自主的に手をつなぐ「かながわ女性会議」が発足。そして秋には、女性の自立と社会参加を目標に、湘南・江の島に県立婦人総合センターが、開館いたしました。

プランと組織とセンターと、三つの柱がそろって第一歩を踏み出した'82 年は「神奈川婦人元年」。そして、ことし'83 年は、前進・行動の年として、連帯の輪が一層広がることを、心から願っております。

婦人総合センターは開館以来、利用・見学の方々に連日にぎわっております。五年前の建設構想の段階から、多くの県民女性が参加して、貴重な意見や提言を寄せて下さったことが、いま、センターの活力として生きている感を深くいたします。

このセンターの組織は、生活科学・福祉・婦人労働・生涯学習、それらの連携をはかる企画調整の一の五部門からなっています。それぞれが独自の事業をすすめながら、同時に各部門が横に連携・協力して、情報提供や相談・啓発などの事業に総合的に取り組んでいくのが、このセンターの大きな特徴です。

その総合事業のひとつに婦人問題総合情報誌の発行があり、これは「かながわ女性プラン」の中に、県の実施計画として掲げているものです。

開館以来、センターはさまざまな事業をすすめてまいりましたが、五七年度を締めくくるこの時期に、婦人問題総合情報誌として「かながわ女性ジャーナル」創刊の運びに至りましたことを、深くよろこびといたします。

情報化時代といわれて既に久しい昨今ですが、社会の変化と共に女性の生き方も変化し、それに伴って女性にかかわる新しい、あるいは大事な情報が大小つぎつぎにうまれます。しかし、婦人の問題は教育、消費、福祉、労働をふくめて社会・文化全般に広くわたっています。

何を取捨選択して一冊に盛りこむか、むずかしいところですが、創刊号には「地方の時代と女性の生き方」を視点とする座談会や海外レポートのほかに、昨秋のセンター開館記念事業の記録、婦人関係行政の動きや報告、法律ガイドなどを中心に編集いたし、県民女性の参加、協力も頂きました。

紙数の制限も含めて、不備未熟な点は、皆さま方のお力添えを願いながら、今後充実に努めたいと存じております。

（一部略）